vinetur

ProWein、ノンアルコール分野のプラットフォームを「Zero+」に改称 2027年から

拡充するノンアルコール飲料エリアで、試飲やマスタークラス、市場分析を提供。急成長する市場を追う来場者を対象とする。

2026年10月6日（火）

ProWeinの主催者は火曜日、2027年の見本市でノンアルコール飲料のプラットフォームを拡充し、「ProWein Zero」から「ProWein Zero+」へ改称すると発表した。ノンアルコール市場が急成長し、商品の種類も広がるなかでの対応となる。

今回の変更は、生産者、小売業者、ホスピタリティ企業、業界関係者に、商品を試飲し、カテゴリーを比較し、市場の今後を議論するための、より幅広い場を提供することを目的としている。ProWein 2027は3月7日から9日まで、デュッセルドルフで開催される予定だ。主催者によると、新たなコンセプトでは、商品の展示に加え、ガイド付き試飲、教育プログラム、市場分析、ノンアルコール飲料の将来をめぐる議論を組み合わせる。

ProWeinのディレクター、フランク・シンドラー氏は、急速に拡大するカテゴリーについて、来場者がより体系的に理解できるようにすることが狙いだと述べた。見本市が発表した声明で同氏は、新たな形式では豊富な商品をそろえるだけでなく、変化する市場を把握しようとする業界関係者に、より明確な指針を提供すると説明した。

新エリアの中心となるのは、Meininger Verlagと共同で運営するオープン試飲スペースだ。主催者によると、業界関係者はここで最大300点のノンアルコール商品を試飲できる。このスペースでは、現在の商品ラインアップや新しいコンセプト、市場の最近の動向を幅広く紹介する。2027年は、新たに「Zero+ Bar」も設ける。

「Zero+ Bar」は、オーストリアの栄養経済学者で食品・飲料の専門家でもあり、コンサルティングプラットフォームdrinkZEROを設立したクラウス・ポストマン博士が率いる。主催者によると、ポストマン氏とdrinkZEROが、新たなZero+ゾーンのコンテンツ構成とプログラム開発を担う。プログラムには、官能分析、商品開発、技術に関するマスタークラスのほか、消費者行動、市場動向、ホスピタリティ、市場投入戦略をテーマにした講演が含まれる見込みだ。テーマや登壇者に応じて、英語で行われるセッションもある。

プラットフォームの拡充は、ノンアルコール分野がノンアルコールワインやスパークリングワインにとどまらず、より幅広い商品群へと広がっていることを反映している。主催者によると、市場に

は、より定着したカテゴリーに加え、プロキシ、アペリティフの代替品、大人向けのハイブリッド飲料も登場している。技術の変化、消費者需要の変化、風味や商品品質、サービス、ブランディングへの期待の高まりが、いずれも分野の発展を形づくっているという。

ProWeinのプログラムでは、多くの生産者や買い手が直面する課題を取り上げる見通しだ。成長が見込まれるカテゴリーは何か、生産を変える技術革新は何か、小売店やレストランは市場のさらなる拡大にどう貢献できるのか、といった点だ。主催者はこの分野を、アルコール飲料の単なる代替品としてではなく、飲酒習慣や商品イノベーションのより広範な変化の一部として位置づけている。

ポストマン氏は、こうした変化によって、比較的短期間で独自の飲料文化が生まれ、新商品や新たな飲用機会に加え、官能体験、小売、ホスピタリティに対する新たな需要も生じたと述べた。主催者によると、ProWein 2027で同氏が取り組むのは、国際的な業界関係者向けの試飲や公開討論を通じて、そうした変化を明らかにすることだ。

今回の発表は、ワイン・スピリッツ業界を代表する国際見本市の一つが、生産者の投資や商業面での関心を集め続ける市場分野で、存在感をさらに高めようとしていることを示す。「Zero」を「Zero+」へ拡充することで、ProWeinはノンアルコール分野の取り組みを単なる商品展示にとどめず、世界の飲料業界を対象とした、事業判断やカテゴリーの知識向上、議論のための実務的な場にしようとしている。